

カシオペヤ座を撮る

秋を代表するカシオペヤ座を、赤道儀を使い画面全体に写し込むように撮ってみましょう。35mmのレンズを使えば、カシオペヤ座全体を画面に収めることができます。



広角レンズで カシオペヤ座全体を写し取る

秋の星空は、夏の星空や冬の星空と比べて明るい星が少なく、やや寂しい印象があります。それでも、秋の星空には淡いながらも天の川が流れており、夜空が暗い場所ならその姿を楽しむことができます。

カシオペヤ座は秋を代表する星座ですが、北極星を探すための星座としてもよく知られています。カシオペヤ座の星の並びは、5つの星がアルファベットのM（もしくはWともいわれます）を形作っています。その明るさは2等星が3つ、3等星が2つですから特別に明るいわけではないものの、街中でも見つけることができ、天の川が見えるような場所ならすぐに見つけられることでしょう。またカシオペヤ座は天の川の中にあるために、写真に撮ると星数が非常に多く、小さな散開星団もたくさん写り込み、なかなか賑やかな眺めとなります。

カシオペヤ座のMの字形を程よく画面に収めるには、50mm標準レンズが適当ですが、もし暗い星まで含めたカシオペヤ座の全体を収めようと思ったら、35mmレンズの方が適しています。またカシオペヤ座をはじめとする星座写真の撮影では、赤道儀を使っただけの追尾撮影の方が、ISO感度を下げたり、絞りを効かせたりできる分、高画質が狙えます。露出モードをB（バルブ）にして、数分間の露出を行ってみましょう。

赤道儀で点像をきっちり写す

この作品は35mmレンズで撮影しました。赤道儀を用いているために、ISO1600で露出が1分でも星をきっちり点像に写すことができます。もし赤道儀を使わないなら、ISO感度は6400以上という高感度での撮影となるため、多少の画質低下を覚悟しなければなりません。

DATA

- ▶カメラ Canon EOS 5Ds
- ▶レンズ EF35mm F1.4L II USM
- ▶焦点距離 35mm ▶シャッター速度 1分
- ▶絞り F4 ▶ISO 1600 ▶WB マニュアル

【撮影地・日時】長野県・2016.10.1・04
※ソフトフィルター、赤道儀使用

POINT

- ・カシオペヤ座は天の川の中にあるため、写真に撮ると賑やかな眺めとなる
- ・35mmか50mmのレンズで撮影するのが好適
- ・可能であれば赤道儀を用いて撮影しよう